

神の御業は現れます

ヨハネ9:1~7、13~17 / 李正雨師

私たちが生きているこの世には、偏見、先入観、固定観念などというものが存在しています。これはほとんど誤った情報によって生じるものですが、思ったより大きな影響力を持っています。それで、このような偏見や固定観念が頭の中に根付くと、簡単に捨てられません。私もできるだけ偏見や固定観念を持たないように、捨てるようにと努力しますが、容易ではありません。おそらく、これらのことと死ぬまで戦わなければなりません。数え切れないほどの偏見と先入観と固定観念から完全に離れるのは難しいと思います。それでは、私たちがよく知っている偏見や先入観などの中には、何があるのでしょうか。私が韓国人だから、韓国人についての偏見や先入観などを調べてみましょう。代表的なものとしては、「韓国人は辛いものが好き、韓国料理は辛くて食べにくい」などのことがあります。もちろん日本に比べて韓国料理の方が辛いです。しかし日本人が食べられないほどではなく、そんなに辛い食べ物があれば、ほとんどの韓国人も食べられません。私は最近、二か月に1回「教会だより」に韓国料理に関する記事を載せています。そして、これのために飯能教会の人々と共に料理を作って食べていますが、今まで辛くて食べられない料理はありませんでした。すべての韓国料理が辛いわけでもなく、辛くても十分食べられるほどの辛さなので、韓国料理は辛くて食べにくいという言葉は先入観だと言えるでしょう。

今日の福音書もこの観点から見るができると思います。今日の福音書で注目される人は、生まれつき目の見えない人です。イエス様と弟子たちは、通りすがりに生まれつき目の見えない人を見かけられます。そして弟子たちは、イエス様にこう尋ねます。2節の言葉です。「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」弟子たちは、生まれつき目が見えないようになったことと、罪を関連させます。残念ながら、このような考え方は、神様の裁きと正義を正当化するために作られた方法の一つです。生まれつき目が見えないことは、神の過ちのように見えますが、実は人間の罪があったため、起こったことだということです。罪による裁きを受けているのだと言い訳をするのです。面白いことに、このような考え方は他の宗教でもあります。ヒンドゥー教や仏教の因果応報思想、つまりよい行いをすればよい報いがあり、悪い行いをすれば悪い報いがあるということです。しかし、皆様もよくご存知のように、このような考え方は必ず成立するとは言えません。行動には常に結果が付いてきますが、必ず結果の良し悪しが決まってついて来るわけではありません。良いことを行ったのに、悪い報いが与えられる場合もあり、悪人が成功する場合もあります。それで、弟子たちのこのような質問は正しくはないと思います。

しかし、このような弟子たちの質問は、根拠なく出てきた質問ではなかったと思います。旧約聖書のいくつかの箇所を見ると、神様が報われると書かれています。出エジプト記34章7節の言葉です。「幾千代にも及ぶ慈しみを守り、罪と背きと過ちを赦す。しかし罰すべき者を罰せずにはおかず、父祖の罪を、子、孫に三代、四代までも問う者。」イザヤ書65章6節の言葉です。「彼らの悪も先祖の悪も共に、と主は言われる。彼らは山の上で香をたき、丘の上でわたしを嘲った。わたしは、初めから彼らがしてきた業を量り、そのふところに報いる。」このような箇所があるので、弟子たちは、障害をもって生まれるのは罪のためだと思いました。先祖が罪を犯したので、報いを受けるのだと思いました。そして、通りすがりに生まれつき目が見えない人と出会うと、その人の罪が誰の罪のためかをイエス様に尋ねたのです。しかし、イエス様は障害を持って生まれるのは、罪によるものではないと言われました。むしろ、神様の御業が現れるためだと言われます。この言葉を理解するためには、旧約聖書の報いの問題に戻らなければならないと思います。神様が報いについて語られる理由が何なのかを考えなければなりません。なぜ神様は、ご自分の民たちに報いについて言われたのでしょうか。神様が報いについて言われたのは、ご自分の民を正しく導くためだと思います。イスラエルが罪の民にならないように、もし罪を犯した場合は、悔い改めて神様のもとに帰ることができるようにするため、報いについておっしゃったのです。これは、イスラエルの民にとっては非常に重要なことでした。なぜなら、イスラエルは神様が選んだ民であり、神様の御業を現わす役割を担った人々だからです。

今は数多くの教会があり、キリスト教は、誰もが知っている世界的な宗教になりました。しかし、旧約聖書の時代には、誰もが知っている宗教ではありませんでした。イスラエルという部族の宗教、ヤハウェの神

様は、イスラエルを導く神であっただけです。それで、イスラエルの民の役割は、自分たちの状況を通して、他の民族に神の御業を現わすことでした。彼らのすべてのことは、神様の御業と関係がありました。ですから、彼らに与えられた報いは、鞭のような役割をしたわけであり、これによってイスラエルは、神様の御業を現わす民になることができました。だからといって、報いが罪にだけ適用されたのではありませんでした。イスラエルが神様によく従った場合、それに対する報いも与えられました。神様はイスラエルを強くし、戦争に勝利するようにしました。豊かにし、平安にしました。そして、このすべてのことは、神様の御業を現わすことでした。

このような考え方を持って今日の福音書に戻りましょう。イエス様は弟子たちに彼が生まれつき目の見えない人になったのは、罪のためではなく、神様の御業が彼に現れるためだとおっしゃいます。これは、生まれつき目の見えない人に慰めを与えてくださるだけでなく、彼を神の民として認めてくださることです。おそらく彼は、自分の障害によって多くの悩みを抱えていたと思います。人々の視線だけでなく、信仰的にも、自分や先祖の罪によって神様に捨てられたと思ったかもしれません。しかし、イエス様は、この考えを持っている彼に「神の業がこの人に現れるためだ」と言ってくださいます。彼に起こっているすべてのことは、何かの因果があることでも、罪の報いでもないということです。過ちによるものではなく、神様の御業を現わすためのもの、神様がイエス様を通して立てる新しい歴史と救いを現わすためのものだというのです。

これは、神様の新しい統治を語ることだと思います。過去の神様は、報いによってイスラエルを治められました。彼らの善と悪によって祝福を下さったり、罰を与えたりなさいました。しかしイエス様は、ご自分によって、この報いによる統治は終わったということを示されました。イエス様は、生まれつき目の見えない人を見られ、彼のことは神様の御業を現わすことだと言われました。これは、単に病気を癒すことだけではなく、過去から受け継いだ普遍的な考えと価値観が変わらなければならないということをおっしゃったのです。もはや報いが私たちのことを導くものではありません。キリストの福音と救いが私たちを導くのです。律法を守るか、そうではないかによる救いではなく、キリストによる救い。罪が人々を治めるのではなく、キリストの愛が人々を治めること。今日の福音書は、これを私たちに教えているのです。そして、過去イスラエルが報いと律法によって神様の御業を現したように、今日の福音書の盲目のを通して、福音がイエス様の御業を現わすでしょう。6~7節の言葉です。「イエスは地面に唾をし、唾で土をこねてその人の目にお塗りになった。そして、『シロアム——『遣わされた者』という意味——の池に行って洗いなさい』と言われた。そこで、彼は行って洗い、目が見えるようになって、帰って来た。」

イエス様がこの盲人をシロアムの池に送られたのは、シロアムの意味が「遣わされた者」という意味を持っているからだと思います。単純な癒しであれば、イエス様がこの盲人をシロアムの池まで送られる理由はなかったでしょう。しかし、この盲人は遣わされた者として、人々にイエス様の御業を現わさなければならなかったので、イエス様はこの人をシロアムの池に送られたのです。過去にイスラエルが神様の御業を現わしたように、この盲人も同じ役割をしたのです。そして、これによって多くのことが起こります。イエス様のこのしるしが行われた日は、安息日、つまり聖なる日でした。ユダヤ人たちは、この日のために多くの律法と法律を立てましたが、安息日を守るという理由によって、隣人への愛は行われませんでした。しかしイエス様は、この盲人を癒すことによって、安息日の律法よりも重要な隣人への愛を行われました。聖なる日をより聖なる日になさったのです。また、このことは人々の偏見と固定観念を揺さぶりました。今日の福音書16節によると、ファリサイ派の人々がこのことによって意見が分かれたと書いてあります。安息日についての固定観念だけでなく、罪の報いについての人々の偏見も変わる瞬間でした。そして生まれつき目の見えない人は、もはや罪に縛られていませんでした。他の人たちに神様の御業を現し始めました。イエス様を預言者だと告白し、自分に与えられた神様の御業を明らかに示しました。

今日の福音書は、私たちの偏見と先入観と固定観念などをもって人々を判断してはならないということを教えています。そして律法ではなく、福音が私たちを支配し、治めることを語っています。キリスト教とユダヤ教が違って、私たちとユダヤ人が違うのは、律法ではなく福音が私たちを導くからです。福音の下では、誰も報いを受けたり、報いによって引っ張られたりすることはありません。キリストの福音、十字架だけが私たちを導き、神の御業を現わすのです。これを信じて従っている皆様を通して、神様の御業が現れますように。キリストの福音が皆様と共にありますように、主の御名によって祈ります。アーメン